

# 平成24年度第3回定例会

## 八王子市教育委員会会議録

日	時	平成24年5月9日(水)	午前9時
場	所	八王子市役所 議会棟	4階 第3・第4委員会室

## 第3回定例会議事日程

- 1 日 時 平成24年5月9日(水)午前9時
- 2 場 所 八王子市役所 議会棟 4階 第3・第4委員会室
- 3 報告事項
  - ・バス運転手刺傷事件後の対応について(口頭) (指導課)
  - ・こども野球教室について(口頭) (スポーツ振興課)
  - ・図書館こどもまつりについて(口頭) (図書館)

### その他報告

---

#### 八王子市教育委員会

##### 出席委員(5名)

委 員 長	(1番)	小田原 榮
委 員	(2番)	和田 孝
委 員	(3番)	川上 剋美
委 員	(4番)	金山 滋美
教 育 長	(5番)	坂倉 仁

##### 教育委員会事務局

教 育 長 (再掲)	坂倉 仁
学 校 教 育 部 長	野村 みゆき
学校教育部指導担当部長	相原 雄三
教 育 総 務 課 長	布袋 孝一
学 校 教 育 部 主 幹 (支援教育担当)	穴井 由美子
学 校 教 育 部 主 幹 (企画調整担当)	平塚 裕之
施 設 整 備 課 長	加藤 雅己

学 事 課 長	海 野 千 細
学 校 教 育 部 主 幹 ( 保 健 給 食 担 当 )	山 野 井 寛 之
指 導 課 長	廣 瀬 和 宏
指 導 課 統 括 指 導 主 事 ( 企 画 調 整 担 当 )	所 夏 目
指 導 課 統 括 指 導 主 事 ( 教 育 施 策 担 当 )	山 下 久 也
指 導 課 統 括 指 導 主 事 ( 教 育 セ ン タ ー 担 当 )	山 本 武
指 導 課 先 任 指 導 主 事	木 下 雅 雄
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 長	榎 本 茂 保
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 参 事 ( 図 書 館 担 当 )	穂 坂 敏 明
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 国 体 推 進 室 長	富 貴 澤 繁 幸
生 涯 学 習 総 務 課 長	宮 木 高 一
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 ( 図 書 館 担 当 )	中 村 照 雄
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 ( 図 書 館 担 当 )	遠 藤 辰 雄
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 ( 図 書 館 担 当 )	田 中 明 美
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 ( こ ど も 科 学 館 担 当 )	牛 山 清 志
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	小 山 等
生 涯 学 習 ス ポ ー ツ 部 主 幹 ( ス ポ ー ツ 施 設 担 当 )	橋 本 徹
国 体 推 進 室 主 幹	高 橋 利 光
国 体 推 進 室 主 幹	岩 田 充
学 習 支 援 課 長	新 井 雅 人
文 化 財 課 長	田 島 巨 樹
八 王 子 市 図 書 館 主 任	湯 原 直 彦

事務局職員出席者

教育総務課主査

遠藤徹也

教育総務課主任

川村直

教育総務課主事

南之園容子

教育総務課嘱託員

小松麻紀子

【午前9時00分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。

本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成24年度第3回定例会を開会いたします。

毎回申し上げておりますけれども、本市では、5月7日より夏季の省エネルギー対策といたしまして、より一層の電力の効率的な使用等に努める取り組みを行っています。そこで、本定例会においても、出席者は軽装で、照明は一部消灯として、実施いたしますので、御理解いただきますようお願いいたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、4番、金山滋美委員を指名いたします。よろしく申し上げます。

なお、本日の議事進行について事務局と調整いたしました結果、「八王子市教育委員会会議規則」第9条の規定に基づき、議事日程を変更し、報告事項「バス運転手刺傷事件後の対応について」を議事日程の最後に報告することとしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 御異議ないものと認めます。

小田原委員長 それでは、報告事項となります。

まずスポーツ振興課から報告願います。

小山スポーツ振興課長 それでは、八王子市民球場で実施した「こども野球教室」について、口頭で報告させていただきます。

5月6日、日曜日に八王子市民球場で、読売ジャイアンツのイースタンリーグ公式戦が行われました。八王子市では10年ぶりに開催されるということもあり、市民の方にプロ野球の試合を見てもらうだけでなく、そこに何か付加価値をつけたいと読売ジャイアンツ側をお願いをしてみたところ、二軍スタッフによる少年野球教室を開催していただけることになりました。

そこで、八王子市体育協会を通じて参加者を募ったところ、八王子少年軟式野球協議会加盟の中央リーグ、研修リーグ、ウエスリーグの16チームから、女子を含めた小学5、6年生約100名が参加することになりました。

当日は、読売ジャイアンツの川相二軍監督はじめ、阿波野、豊田、岸川、清水、上田、小関、野村、木村という、そうそうたるコーチ陣が子どもたちの指導にあたってくださいました。

指導の前には川相監督から、子どもたちに対して、「コーチの話をよく聞きなさい」「家に帰ったら、今日覚えたことを必ず復習しなさい」、更に「これは普通の学校の授業でも全く同じだよ」「元気よく挨拶をしてください」というお話がありました。

その後、準備体操等を経て、ポジション別に分かれて、それぞれ専門のコーチから指導を受けましたが、子どもたちは非常に集中していて、大げさではなく目を輝かせていましたし、筆記用具を持ってきて、コーチの話を熱心にメモしている子もいました。

特に、阿波野コーチは、現役時代は亜細亜大学から近鉄に入って、新人王もとられている素晴らしいピッチャーですが、球の握り方、肘の角度など、子どもたちに細かく指導してくださいましたし、子どもたちがボールを投げている姿を阿波野さんがカメラで撮って、その映像を見せながら「ここは、こうしたほうがいいよ」と、具体的なアドバイスもしていただきました。

また、今回の指導陣の方々は、我々親世代に活躍された選手ばかりだったため、野球教室終了後には、子どもたちだけでなく、親御さん方まで、着ているものにサインをお願いする等、かなりの人だかりになってしまいましたが、各コーチはそれに快く応じてくださいました。

子どもたちにとっては非常に良い思い出になったと同時に、人生の目標作りにもなったのではないかと考えております。

報告は以上です。

小田原委員長　スポーツ振興課からの報告は終わりました。

本件について、御質疑、御意見ございませんか。

阿波野コーチの熱心な指導を間近に見て、少年野球の指導者の皆さんはどう感じたのでしょうか。

小山スポーツ振興課長　実績ある方に教えていただけるので、やはり説得力があったと思います。

少年野球の指導者には、昔から野球をされていた方、親という立場で携わった方などさまざまな方がいらっしゃると思いますが、今回の学んでいただいたことを、子どもたちの次の指導につなげていただけたらと考えております。

小田原委員長 他にございませんか。

金山委員 子どもたちにはとてもいいチャンスだったと思いますが、先ほど言われた女子というのは、女子チームではなく、男子の中に女子が混ざってやっていた、ということでしょうか。

また、全部で何名いたか、おわかりになりますか。

小山スポーツ振興課長 女子チームで参加したわけではありません。小学生の野球チームの場合、女子と男子が、同じチームと一緒に練習しているところが多いです。

人数については、はっきりとはわかりませんが、私が見たのは1名だけでした。

小田原委員長 1名ということはないでしょう。かなりの人数がいたと思いますが。

坂倉教育長 1人はピッチャーでしたね。ボールにスピードはなかったですが、フォームがすごく良かったです。他にも、内野の練習をしていた子もいたし、もう少し小さな子も練習していました。私が見ただけでも女の子は3、4名いましたよ。

小田原委員長 女子のプロ野球リーグもあるから、そういう時代なのだろうと思います。

八王子市民球場を使って、イースタンリーグ戦が復活することはないのですか。

小山スポーツ振興課長 国体開催で球場も広くなったことですし、主催者側としては、今後も継続的に実施したいと考えているそうです。

小田原委員長 せっかく国体も開催することですから、これを機に、野球のジュニア育成をもっと図っていてもいいだろうと思います。

スポーツ振興課の報告は、以上ということによろしいですか。

続いて、図書館から報告願います。

田中生涯学習スポーツ部主幹 それでは、4月23日の「子ども読書の日」を記念して、4月28日土曜日に、中央図書館で開催いたしました「図書館こどもまつり」について、中央図書館湯原主任より口頭で報告いたします。

湯原八王子市図書館主任 「図書館こどもまつり」は、「子ども読書の日」の記念事業として、子どもと保護者が本に魅力を感じ、本をより身近なものとして捉え、親しむ心を養うため、八王子子ども文庫連絡協議会の協力を得て、平成20年度より実施しているもので、今年で5年目を迎えます。

それまでの図書館事業は、児童文学作家の講演や、読み聞かせのレベルアップ講座など、大人向けの啓発に重きを置いておりましたが、平成20年にブックスタート事業が始まったことをきっかけに、親子参加型のイベントにシフトしています。

平成24年度は4月28日土曜日に実施し、おはなし会、けん玉やお手玉の昔遊び、切り紙遊び、わらべ歌遊びなどのイベントや絵本の展示を行い、幼児から小学校低学年のお子さんを含めて182名の参加がありました。

報告は以上です。

小田原委員長 図書館からの報告は以上ですが、何かございませんか。

川上委員 読書の日の記念事業ということですが、歌などのイベントも図書館の中で行ったということですか。

湯原八王子市図書館主任 中央図書館地下の展示室で行いました。

川上委員 歌やけん玉などの昔遊びは、絵本の中に出てくるとか、何か本に関係があるの  
でなさったのですか。

湯原八王子市図書館主任 けん玉や昔遊びにつながる本、わらべ歌の本などを展示して、  
それらの本を紹介したり貸し出したりと、本につなげる工夫をいたしました。

イベントとして遊んで終わり、というわけではありません。

小田原委員長 4月28日の図書館のイベントの趣旨はこうで、その趣旨に沿ったこうい  
う中身があって、それについて182名の子どもたちや親たちの反応はこうだった、そ  
ういう報告が欲しいのです。

川上委員 182名の子どもが参加したとおっしゃいましたが、年齢的な分布はわかりま  
すか。

小田原委員長 年次ごとの人数の変化とか、182名という参加人数をどう評価するの  
かなども伺いたいですね。

湯原八王子市図書館主任 「図書館こどもまつり」は今年で開催5年目ですが、年ごとの  
参加人数の大きな変化はなく、毎年180名前後で推移しております。

また、参加者の年齢分布について細かい数字は調べていないのですが、幼児から小学  
校低学年のお子さんまでと、子どもたちの年齢は割と散らばっていると感ずます。

親子参加型のイベントですので、親子でけん玉やコマ回しをしたり、お父さんが自分  
の子どもに一生懸命教えたりする微笑ましい光景が見られました。

川上委員 5年目で毎年180名程度参加しているということですが、市民に対してどの  
ような方法で広報活動をしているのですか。

湯原八王子市図書館主任 図書館のホームページに掲載したり、図書館にチラシを置いて  
PRしています。また、近隣の小学校にもチラシをお配りして、参加の呼びかけを行っ

ています。

小田原委員長 小学生はどのくらい参加したかを知りたいのですね。小学生は余り参加しなかったのではないかと推測できますし、親を含めて182名という、この数をどう見るかでしょうね。

今日、こども科学館の担当者は来ていますか。こども科学館も5月21日の金環日食に向けてイベントの準備をしていると思いますが、参加者182名という数字は、こども科学館から見てどうですか。日食のイベントにはどのくらいの人が集まる予定ですか。

牛山生涯学習スポーツ部主幹 日食当日の観察会について300名の参加者を募集して、今のところ280名の方が参加予定です。

また事前の学習会も実施したのですが、一般向け学習会には、4月21日に147名、翌22日に149名の方が参加され、4月24日の教員向け学習会にも69名の方に御参加いただきました。

ですから、図書館のイベントの場合も、大体200名ぐらいがいいところではないかと思えます。

小田原委員長 金環日食は何十年に一度の出来事ですから、皆さん関心は高いだろうと思えます。しかし、図書館のイベントにしても、参加者182名という数字はどうなのか、という感じもしますね。

坂倉教育長 今回の報告事項に「図書館こどもまつり」や「子ども野球教室」のことを入れてと言ったのは、皆さんがやっていることを、教育委員の方にどんどん売り込んでほしいと思ったからです。

確かに、今回の「図書館こどもまつり」は、宣伝効果の面で広がりがなかったのかもしれないませんが、八王子市の図書館では、何年も前からブックスタート事業に取り組んで、朗読会やおはなし会も沢山やっているのです。例え教育委員の方々に、参加人数のことなどで厳しい意見を言われたとしても、コツコツと取り組みをしているということだけは、もっと自信を持って言ってください。教育委員の皆さんに言い負かされるのではなく、皆さんがやっていることをもっと宣伝して、どんどん売り込んでほしいのです。私には、普段皆さんが本当に一生懸命やっていることがよくわかっているので、定例会ではもっと自信を持って答えてほしいと思えます。

川上委員 「図書館こどもまつり」についてもう少し伺いたいと思います。この「図書館こどもまつり」は何のためにやっているのか、目的は何かを教えてください。

田中生涯学習スポーツ部主幹 「子どもの読書活動の推進に関する法律」の中に「子ども読書の日」は4月23日とする」という条文があります。また、「国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない」という条文もありますので、八王子市ではこれに沿って、お子さんに喜んでいただけるような図書館事業を行うということで、5年前から「図書館こどもまつり」を始めました。

川上委員 事業の目的はよくわかりましたが、八王子市として、どのような人たちに、どのように、読書活動を広めていきたいのか、その目標を伺いたいです。

そうすると、先ほど報告していただいた、参加人数やイベントとの関係性も出てくるでしょう。どこまで、どういうふうにしたいのかを教えてください。

田中生涯学習スポーツ部主幹 今のところ、イベントの中心は中央図書館ですが、他の地区から、八王子市の他の図書館でもやってほしいという要望が出ております。「図書館こどもまつり」の参加者が182人とやや少ないのも、開催場所に原因があるのかもしれない。

八王子市では、乳児の3カ月健診のときにブックスタート事業を行っております。以降、3歳健診のときには3歳児読み聞かせ事業をしておりますし、小学校に入ってから朝読書など、長く読書に親しんでいただける活動しております。

現在、図書館のイベントに参加されるのは、乳母車に乗った小さなお子さんから、小学校高学年くらいまでの方が多いのですが、今後は頑張って、小・中学生まで対象を広げていきたいと考えております。

川上委員 今後、中央図書館以外でもイベントを開催しようというお気持ちはありますか。

田中生涯学習スポーツ部主幹 私は市の北部にある川口図書館にありますが、複合施設なので、イベント会場として使える場所が図書館の中になく、実施までにはなかなか行き着かない、というところがあります。

小田原委員長 そういう場所にふさわしい、また違った形の「子どもの読書まつり」を考えればいいわけであって、中央図書館と同じようにけん玉や読み聞かせをする場所がないからできない、というのは少し違うと思うのです。

川上委員 図書館事業の目的は、子どもたちにも、もちろん社会人にも、本を読むということを習慣づけて、その意義をわかってもらうことだと思います。

今回は子どものためのイベントですが、どこの館でも同じことをやらなければいけない、というわけではないでしょう。場所的なこと、指導者のこと、いろいろあるかもしれ

れませんが、とてもすてきな事業だと思うので、中央図書館で全部行おうとせず、分館ごとにイベントを分けて、開催する方法もあるのではないかと思います。

市民に「図書館こどもまつり」の事業をよく理解してもらい、できるだけ広く浸透させてほしいと思います。

坂倉教育長 川上委員の言われたとおりです。川口図書館では、確かに子ども向けのイベントはできないかもしれないけれど、読書のすそ野を広げるという意味で、去年も、一昨年も、八王子市に縁のある人物の読書展をやったではないですか。

けん玉などの昔遊びも一見直接本とは関係ないかもしれない、でも、読書自体にすぐ結びつかない人にはそこから入ってもらって本につなげる、そういう意図があるのなら、それはそれでしっかり伝えないとわからないでしょう。そういう答え方をしないから、委員の方に厳しい言われ方をしてしまうので、皆さんがやっていることはもっと自信を持って主張してほしいと思います。

小田原委員長 例えば学校の校外学習は、1年生の遠足から始まって、高学年の社会科見学までいろいろやります。あれは体験学習の一つですから、1年生から6年生まで体系的に積み上げていく形を考えなければいけないのです。ところが、稀にばらばらにやる学校があると、子どもたちにいい形で体験が蓄積されない場合があるのです。

図書館の「子ども読書の日」も、図書館の行事のひとつであって、何が目的かという、市民に本を読んでもらう、あるいは活字に親しんでもらう、そしてそれを通して市民力をアップしてもらう、そういうことだろうと思うのです。

そのためには「子ども読書の日」「図書館こどもまつり」を、図書館行事のひとつとしてしっかり位置付け、もっと広報活動も行って、子どもたちにはいい本に沢山親しんでもらうのです。先ほどから教育長も、そのことを言いたいのだと思います。

私は、事務局の皆さんが、非常に意識を高く持ってこの場に臨んでいらっしゃることは、大変いいことだと思いますので、今後も経過を報告していただきたいと思います。

その他はいかがですか。

和田委員 先ほどの報告を聞いていて、私も不思議だと思ったのです。「図書館こどもまつり」を5年間やって、参加者は毎年180名前後と、さらりとおっしゃっていましたが、その数字をどう受けとめているかについてのコメントがない、つまり、この「図書館こどもまつり」が、読書活動を推進する上で、どういう位置付けになっているのかという説明がなかったからです。

これは先ほど川上委員からも指摘があったように、将来に向けて、どういう目標あるいは目的を持って、この活動をしているのかが提示されていないので、「それは一体どういうことですか」と聞かれることになるわけです。

ですから、この場での報告は、私たち教育委員へのメッセージではなく、こういう事業をやりたいのだと、もっと夢を語ってもらいたいし、目標を掲げてもらいたいのです。もちろん、苦労されていることも沢山あるわけですから、そのことも、この場で話していただければと思います。

それから、読書活動の推進については、家庭環境や幼児期での本との出会いが大事になってくるわけです。子どもにいきなり本を与えても読書するわけではない、子どもと本をつなぐ「何か」がなければいけないわけで、それが「図書館こどもまつり」だと思うのです。昔遊びを一緒にやってくれる人がいることによって、自然に本に結びつけていく機会を作っているのでしょうし、そういう取り組みは非常に大事で、これからも推進していただきたいと思います。

ただし、ゲームや遊びをしてそれで終わりにするのではなく、図書館等の状況に応じていろいろな取り組み方があるでしょうから、その辺をぜひ工夫していただきたいと思います。

やはり、5年間「図書館こどもまつり」を続けていて、参加者180名前後という数字はもの足りないし、何か工夫が必要になってくるだろうと思います。

小田原委員長 金山委員はいかがですか。

金山委員 中央図書館以外では、どんなイベントをやっているのかが気になりました。小さいお子さんを連れのお母さんが、遠くの図書館まで行くのは大変なので、そのところをもう少し工夫して、例えば、けん玉などの昔遊びも、各分館に巡回して行う形もあると思います。

せっかく「子ども読書の日」というのがあるのですから、これを利用しない手はないし、うまく利用する形を考えていただくと、もっと小さい子どもたちの参加促進につながるのではないかと思います。

小田原委員長 「図書館こどもまつり」について、本日、報告していただいたので、これを機にいろいろな方向から検討して行ってほしいですし、大いに期待しています。

今、本が非常に高くなって、文庫本が600円、700円もする時代です。消費税論議も盛んに行われていますが、例えばフランスなどは、本の消費税を、他の物品に比べ

て低く抑えています。これは、国民性や風土、文化レベルの問題だろうと思いますが、日本の場合は本の消費税のことは話題にも上がってこないわけです。

ぜひ図書館が、本を借りることだけでなく、買って読むことも推進する、そういうことも含めて、活字に親しむための推進力になっていっていただきたいと思います。

田中生涯学習スポーツ部主幹 最後にひとつ、よろしいでしょうか。

小田原委員長 はい、どうぞ。

田中生涯学習スポーツ部主幹 「図書館こどもまつり」とは別に、八王子市の図書館では、子ども向けのおはなし会を通年行事として行っています。幼い子向け、小さい子向け、小学校向けという三部構成で、回数などは、今はっきりとはわからないのですが、決まった日にちにどの館でも実施しております。

報告がもれていて、申しわけありませんでした。

小田原委員長 図書館については、予算編成のところでも、また報告が出てくるだろうと思いますけれど、図書館が学校へ出かけていくとか、学校の先生にも読書推進活動に参加してもらうとか、いろいろなことを考えていってほしいのです。

今のおはなし会の件だけで終わるのではなく、さまざまところでネットを張って、情報集約を行って、その流れを明確にしていっていただきたいと思います。

小田原委員長 それでは、次に指導課から報告願います。

山下指導課統括指導主事 4月22日に発生しました、本市立中学校生徒によるバス運転手刺傷事件後の対応について、前回定例会以降の対応を説明させていただきたいと思えます。

まずは、前回の報告でも少し触れました、生徒の心のケアについてです。

事件当日、当該生徒と一緒にいた関係生徒数名の対応ということで、4月24日火曜日から、教育センターの教育総合教育相談室の心理士を、連日学校に派遣しました。

それから、4月25日水曜日には、当該校で心の健康調査を実施しました。これは、眠れないなどの体調変化や、心身の変化があるかどうかを把握して、必要に応じて心理士等につなげるものでございましたが、重篤な状況はなかったということです。

また、4月28日土曜日から30日月曜日までの連休期間中は、教育センターで相談業務を実施しました。これは市内すべての小・中学校にも知らせて、悩みや心配ごとがあれば受け付ける、ということにしたのですが、受付期間中に具体的な相談はありませんでした。

次に、情報収集についてです。まず、4月24日火曜日に、当該校で全学年を対象にアンケート調査を実施しました。これはいじめ等のトラブル把握のため、何か見聞きしたことがないか、うわさ等がないかを調べたのですが、結果的に、今回の事件につながるような情報はありませんでした。なお、当該生徒と友達関係にあった生徒や、部活動仲間の生徒等には、個別に聞き取り調査を行っています。

また、4月25日水曜日の午後6時から7時まで、当該校で臨時の保護者会を開催しました。参加した保護者は239名で、当該校の全校生徒数が約360名ですから、かなりの参加率となります。この中で、校長、生活指導主任、部活動顧問が、事件の概要と対応について説明を行い、その後、質疑応答という形をとったのですが、保護者からは、過熱報道に対する不安や、教育委員会や学校からの情報提供が報道に頼らざるを得ない状況に対しての不満が上がりました。これについては、重大な事件であるため、情報もある程度、人権等に配慮しながら公開されることになるので仕方ないという説明を行って、御了解をいただいたということです。

続いて八王子市教育委員会としての対応ですが、4月26日木曜日の午後5時から6時まで、八王子市の小・中学校の校長を集めて、臨時の校長会を実施しました。ここで教育長、指導担当部長、各統括指導主事より、事件の概要や対応の説明、それから指導上、安全管理上の留意点の指導についてお話をいたしました。

その後、5月1日に「各学校における生活指導等の具体的な取組について（依頼）」の通知を出しました。通知については、4月24日時点でも、注意喚起の通知を出しているのですが、5月1日の通知には、「問題行動の未然防止のための対応チェックリスト」を添付してあります。これは、今回の事件を受けて、各学校で対応した事項、例えば校長先生の講話、学級での指導、アンケートや個別面談、各学校の対応状況、刃物の点検等について記載してあり、これらを確認しながら今後の対応をお願いするものです。また、「日常の教育指導や指導体制に関わる事項のチェックリスト」の中で、問題行動の未然防止・早期発見・早期対応についてのチェックポイント及び、家庭・地域社会との連携や組織体制がどうであるかを見直すためのチェックポイントを示しております。こちらは5月13日締め切り、としておりますので、今後結果を集約するとともに、内容によっては指導主事等が学校訪問を行い、聞き取りや確認をしたいと考えております。併せて、この通知には、児童・生徒向けに「話してみよう！あなたのなやみ、しんぱいごと」というプリントを付けました。周りに相談できない悩みや心配事があれば、ここ

に電話やメールをしてほしいという文書で、各学校で配布してもらいます。

更に、各学校でアンケートを実施する時の参考資料も付けております。

続けて今後の対応ですが、5月18日に生活指導主任の研修会を行います。テーマは今回の事件を受けて、「問題行動の未然防止の視点に立った各機関との連携について」を設定しました。八王子・高尾・南大沢の各警察署、八王子少年センター、児童相談所、八王子地区の保護司会代表、民生・児童委員代表、こども家庭部から子ども家庭支援センター担当者、指導課から本定例会のメンバーと市内全小・中学校の生活指導主任など、関係機関担当者が集まって、問題行動の未然防止のため、どのような連携ができるか、協議や情報交換をしたいと考えております。

対応については以上です。

なお、5月2日を中心に、当該生徒が証言した内容が、テレビ、新聞等でかなり報道されましたので、それについても少しコメントさせていただきます。報道の中ではさまざまことが言われていますが、こちらで学校等に確認できていることのみ、報告させていただきます。ただし、これもあくまで子どもの証言ですし、今申し上げることすべてが真実で正確、ということではございませんので、それについては御了解いただきたいと思います。

まず、「当該生徒はいじめられキャラだったようだ」と指摘されておりました。これは周りの子によると、当該生徒はどちらかというところからかわれたりするとカッなるタイプだったので、そのような意識はなかったし、教員もそのような場面を見聞きしたことはなかったということです。

また、「前日の部活動の大会で、おにぎりや果物を投げつけた」ということですが、これについては、「他の部員に『来たの』と言われたことに腹を立てた」とあったのですが、部員たちはそう言った覚えはなく、逆に本人が、「来てよかったの」と言っていた、という証言もございます。なお、果物を投げつけた事実は確認できませんでしたがおにぎりについては、当該生徒が他の子のおにぎりを取って、また別の子に投げた、という事実がありました。ふざけてなのか、腹を立ててなのかは不明ですが、ぶつけたというより放った、という感じだったようです。

更に、「部活の顧問にいじめられたことを相談していた」ということですが、これについては、当該生徒が他の部員から「下手くそ」と言われたことについて、部活顧問が相談を受けていた事実は確かにありました。しかし、それ以外にいじめ等の相談は受け

ておらず、「下手くそ」と言われた件は、部活顧問が他の部員等を集めて指導を行い、その後は同じようなことがないようにしている、ということでした。

また、「身体的な特徴などを友人からからかわれた」とありますが、これについては友人が、当該生徒のあだ名というか髪型から想像されるような言葉を、1、2回言ったことはあるが、日常的にはなく、その髪型になったときだけ言ったということです。

それから「当該生徒が、他の生徒の胸倉をつかんだりしていた」ということですが、そういったケンカのようなトラブルは確かにあったようです。それで誰かが大げがをしたということはないようですが、いろいろなことを言ったり言われたり、叩いたり叩かれたりはしていた、しかし、彼の方が一方的に弱い立場ではなかったと、学校側は捉えてようです。

なお、先ほどお話ししたとおり、報道がかなり先行していること、証言がいろいろ変わるということで、これはまた改めて整理した上で、警察とも連携をとりながら、情報収集や今後の対応を行ってまいります。

報告は以上です。

小田原委員長 指導課の説明は終わりました。

本件につきまして、御質疑、御意見ございませんか。

和田委員 今の報告で詳しい話が出て、かなり状況がわかってきたのですが、それがどうバスジャックにつながったのでしょうか。報道によっては、参考となる本が押収されたとも聞いているのですが、学校での本人の行動とバスジャックをつなぐものをどう考えていらっしゃるのかを教えてください。

山下指導課統括指導主事 報道では、読んでいた小説にバスジャックをするシーンが出てくるとあります。もし読書好きであったとすれば、本を読んでそのシーンが印象に残っていたのかもしれませんが、具体的なことはわかりません。

本人が周りに何か言われてその気持ちを溜め込んでいた様子、或いは何か計画を立てていた様子なども全く把握できていないので、学校での状況や友達関係があ的事件にどうつながっていったのかは、まだ解明されていないというのが現実です。

和田委員 事前にナイフを購入していますね。警察はこれをバスジャック目的と考えているのでしょうか、それとも誰かを刺すことを考えていたのでしょうか。押収された小説で関係性がわかるのかもしれませんが、その辺はどのように把握されていますか。

山下指導課統括指導主事 警察でないと詳しいコメントは難しいと思うのですが、事件当

日、当該生徒は確かに果物ナイフを購入しています。それと前後して、バスジャックという言葉が盛んに話していたということなので、そこから考えると、潜在的に何かあったのではとも思えます。

ただ、当該生徒はバスの中に立てこもることをイメージしていたら、運転手の方が止めに入ってきたので、思わず刺して逃げてしまった、という見方もあるようなので、これについては、もう少し詳しい情報がないと判断は難しいと思います。

小田原委員長 他にはいかがですか。

金山委員 捜査段階で、臨床心理士との面接などは行うのでしょうか。

山下指導課統括指導主事 臨床心理士が入るかどうかは不明ですが、一部報道では本人の証言が頻繁に変わることから、精神鑑定も必要ではないかということが言われているようなので、今後、何らかの判断を下す可能性はあると思います。

川上委員 先ほどの報告で、学校に心理士を派遣したとおっしゃいましたが、その結果はどうだったのでしょうか。

山下指導課統括指導主事 当該生徒と直接関係ない子も、事件直後は動揺したり落ちつかない状態でしたが、しかし、それで非常にショックを受けたり、自分のことと関連づけて悩むことはなかったようです。

ただし、やはり事件当日一緒にいた子は、自分たちで止めることができたのではないが、あるいは「バスジャックをする」と言ったことに対して、「できるわけない」と反応してしまったことがよくなかったのか、いろいろ悩んだようですし、中にはショックを受けて泣き続けていて、なかなか話を聞けなかった子もいたそうです。

今は全体的にかなり落ちついたようですが、新たな報道が出ることによって、また影響を受ける可能性もありますので、今後も気を付けて見ていきたいと考えております。

小田原委員長 報道等で示されていることは、警察の発表なのか、記者が取材して集めた内容なのか、それはわかっているのですか。

山下指導課統括指導主事 警察の方は、報道内容について、警視庁で発表している部分もあるけれど、報道機関の取材の中で出てきたことも相当数あるだろうとおっしゃっていました。

小田原委員長 今回の報告を聞いていると、いじめの事実は見当たらなかったし、先生も、そう受けとめていなかったということになりますが、そういうことでよろしいですか。

山下指導課指導主事 こちらではそのように捉えています。

小田原委員長　そうすると、先ほど和田委員もおっしゃったように、なぜバスジャックをすることになったのかが極めて不可解だと思います。

山下指導課指導主事　本人の状況として、「いじられやすい」「カッとなりやすい」という傾向はあったようですが、学校で見える範囲は限られておりますし、この場で家庭環境や生育歴など、他の要因について言及することはできませんので、今の段階では、直接今回の事件につながったものは何だったのかを判断するのは難しいと考えております。

小田原委員長　5月1日の通知内容を学校にお願いしたとして、それが本当にこういう事件の未然防止につながるのでしょうか。今のお話をきいていると、学校に手間と時間をとらせるだけの調査にならないかと心配してしまうのです。

山下指導課統括指導主事　確かに、この調査を行うことがベストな対応であるかどうかは、異論が出るところだと思います。

ただ、ここに書かれている内容は、各学校で意識して取り組まなければならないことであると考えております。この事件を踏まえて、学校には普段から取り組んでいかなければならないことについて、再度確認していただくことが大事ですし、その気持ちは先生方も持っていらっしゃると思いますので、御協力いただけるものと考えております。

和田委員　生徒間でのトラブルや、先生とのやりとりのすれ違いというのは、学校生活の中ではよくあることであって、誰でも一度は抱える問題でしょう。

それが、今回のような事件性のあるものにつながってしまったのには、やはり個人的な要因があるのだと考えざるを得ないし、本人が非常に長い期間、他の人間にはわからない部分で積み重ねた問題を爆発させて起したとも言えるでしょう。

家庭のことであったり、生育歴のことであったり、本人の資質的なものも含めて、これからいろいろわかってくると思いますので、余り軽々に周辺の事情だけを集めて、この件を判断するのは危険ではないかと、私は思っています。

八王子市教育委員会の対応として新たな調査をお願いするのは、また学校に手間をかけることにはなりますが、さまざまな事情を抱える児童・生徒の心の悩みを聞くという姿勢を、学校側に注意喚起をするということ自体は、これから繰り返しやっていかなければならないことですので、学校が今できる、限られた取り組みではないでしょうか。

直接的な解決にはならないかもしれないけれど、やはり事件を未然に防いであげられるのは、親や先生や周囲の人たちなので、その人たちに対する働きかけを、八王子市教育委員会にはこれからもやっていただきたいと思います。

また、学校には、何か調査依頼がきたからやるという姿勢ではなく、直接子どもと面接するなど、積極的に状況を把握する取り組みをしてもらいたいですし、調査結果については、八王子市教育委員会でよく精査して、不十分な点があれば学校を指導していただきたいと思います。

小田原委員長 私は、和田委員がお話されたように、子どもたち個々に対して、先生がいろいろな形で接して話を聴いてあげる、そういう時間を多く持ってほしいと思います。

学校現場からは、役所や教育委員会からいろいろな調査がくるので、子どもたちと向き合う時間がなくなる、とよく言われるわけです。ですから、もっと違った形の、私たち教育委員の示唆というか、サジェスションが欲しいと思うのです。

今回の調査もアンケートも性質上、こういう形になるのでしょうか、どうせ聞くなればもう少し細かく聞くべきだろう、そんな感想を持ちました。

川上委員 このチェックリストは、校長先生が学校を代表して出すようになっていきますね。これを先生一人ひとりをお願いすることは考えなかったのですか。

取り組んでいることは、先生ごと、クラスごとに違うのではないかと思います。

山下指導課統括指導主事 基本的なスタンスとしては、各学校で校長先生が意識的に先生方に働きかけ、確認をしながら作成してもらおう、というところにあります。

校長先生が各学校で、どのように先生方にお話しになるか、それを受けて、先生は子どもたちにどういうお話をするのが、一番重要であると考えております。

金山委員 事件に関する説明が、4月の保護者会に間に合わなかった学校も多いと思います。次の機会は夏休み前ぐらいになるとと思いますが、そこで保護者にきちんと説明することがポイントになると思います。

それに、こういう子どもたちのサインは、学校と家庭の両方に出てくるはずなので、先日和田委員がおっしゃった、「連鎖」の現象が起きないように、保護者の方にも注意を促す話をしていただけるとありがたいと思います。

それから、子ども向けのアンケートも載っていますが、今、いじめに関するアンケートは、すべての学校が行っているわけではないのですか。

山下指導課統括指導主事 各学校には「ふれあい月間」という設定があり、その中で必ず実施しています。

金山委員 それならいいのですが、4月初めからこんな事件が起こりましたし、他にも思いも寄らないことがあるかもしれません。これからも、その辺りは大事にしてください。

相原指導担当部長 金山委員がおっしゃったように、4月はクラス替えがあったり、進級したり、部活に参加したりと、今回の件だけではなく、さまざまな悩みを抱える時期なので、この時期には全部の学校でアンケートを行うことになっています。

また、保護者への発信ですが、5月の学校便り等でこの件に触れている学校も一部あったようですが、小・中学校の校長先生には夏休みに入る前に、改めて校長会でこの件を取り上げ、保護者にも説明していただくよう、働きかけてまいります。

和田委員 やはり、校長先生がどれだけ危機感を持っているかが大事で、こういう事件があった時、もう一度自分の学校を見直そうという意識を持ってもらいたいのです。校長先生がどういう姿勢でこのアンケート調査を受け止めるかが非常に重要です。

私も校長時代に「ふれあい月間」を担当していたわけですが、ある時、副校長が、「これで提出します」と持ってきた結果を見て驚いたことがあります。なぜかというと、自分の学校の在籍者数と、出てきた人数が合っていなかった、つまり、各クラスから出てきたアンケートの回答数がクラスの人数に達していない、結果、トータル数も全校の在籍数よりも少ない人数になってしまったのです。

驚いて副校長に、「この合計人数はどうしてこうなったのですか」と聞いたら、「欠席者がいました」と答えるのです。アンケートの回答がある程度集まったからいいのではない、欠席者がいるのであればそれを確かめることの方が重要なのに、その意識が抜け落ちているのです。

そこにこそ問題があることを、校長自身がしっかり自覚していないと、せっかくアンケートをやっても、「はい、集まったので出しましょう」で終わってしまうわけです。

しかもこの場合、私が改めてアンケートの内容を見直したら、「いじめられていますか」という問で、回答欄の「いじめられている」と「いじめられていない」の真ん中にマルを付けている子がいて、それを集計では「いじめられていない」にカウントしていたのです。

校長も、副校長も、担任教師も、アンケートを行っているという認識はあるけれど、個々の子どもの実態や、クラスの問題性を掴もう、という意識がないまま行くと、結局は単なる数字の報告になってしまうのです。こういうアンケートを、何度も繰り返してやる方がいいのかどうか分からないのですが、報告する数値については、管理職である校長や副校長が、最終チェックをしっかりとやってもらいたいと思います。

それから、先ほど委員長から、学校の刃物調査は本当に意味があるのか、という話が

ありました。今回の場合、本人がお金を持っていたので刃物を購入しましたが、通常、感情的になって人に危害を加える場合、とっさに周りにある物を使うことが多いのです。

だから、学校が刃物の管理を怠って、人を傷つける道具を用意して、事件の原因を作ってしまったのでは、やはり問題ではないかと思います。今回の場合、刃物調査は全校に行ってしまうべきで、これからはこういうところも少し管理していく必要があるのではないかと考えています。

相原指導担当部長 アンケートについては、以前に3校ほど、状況把握のために訪問しましたが、どの学校も結果はまず担任が見て、その後、生活指導主任や教務主幹などの主幹教諭、そして、副校長、校長が最終チェックを行うなど、組織的重層的に取り扱っていました。

どうしても、担任だけでは気が付かないところもありますので、いろいろな先生が見ることで、さまざまな角度から子どもたちの心をキャッチできるのではないかと思います。

また、このような取り組みについては、小・中の校長会でもお話をし、意味のあるアンケート調査を行うという、意識付けをするようにしたいと思います。

小田原委員長 他にはございませんか。

金山委員 今回の事件があって、中学校ではかなり危機感を持ったと思うのですが、小学校はどうなのでしょう。中学生になって荒れるお子さんの根っこの部分は、結構小学校時代に原因があったりするで、小学校でもこのようなアンケートをきちんと行って、その結果を大事にしていきたいと思うのです。

相原指導担当部長 小学校でも、アンケートを取ったり個別面談も行ったりしています。中学生が起こした事件だからいい、というわけではなく、全校で意識的に今取り組んでいるところです。

小田原委員長 よろしいでしょうか。それでは、指導課からの報告は以上ということで、終わりにいたします。

予定された報告事項は以上ですが、他に何かございますか。

野村学校教育部長 もう1件、先日起こった水難事故について、指導課から報告させていただきます。

小田原委員長 それでは、指導課から引き続き報告願います。

山下指導課統括指導主事 5月5日土曜日に2件発生した、八王子市立中学校生徒の水難事故について、概要を説明させていただきます。

まず1件目は、午後2時ごろ、報道では3時20分通報となっておりますが、本市の市立中学校2年生の女子生徒数名が、浅川の河原で遊んでいて流される事故が発生しました。事故当日の浅川は大雨の後で増水していました。

女子生徒たちは、最初は水辺で遊んでいる程度だったのですが、その後、川の中に入った2人が、川の流れが強く100メートルほど流されました。2人とも自力で岸には上ったのですが、そこがちょうど崖のような斜面で登ることができず、たまたま通りかかった方がロープを下げてくださったのですが、それでも登れず、東京消防庁に連絡して、消防隊員によって救出後、病院に搬送されたということです。

なお、病院で検査の結果、すり傷等のほかには特に異常はなく、2人とも週明けには登校しております。

もう1件は同日午後3時ごろ、報道では4時25分通報となっておりますが、先ほどの女子生徒とは別グループの八王子市立中学校1年生の男子生徒数名が、やはり浅川で遊んでいて事故にあいました。

グループの中の2人が濁流の川を渡ったのですが、そのうち1人が対岸まで渡った後、頭が痛いと言って動けなくなりました。大雨の後で流れが速く水深も深かったので、頭まで水につかるようなこともあったようです。そこで、近くにいた方が、先ほどの女子生徒の水難救助で現場の近くにいた消防隊員に連絡してくださったので、救急車で病院に搬送され、検査を受けました。結果は特に問題なしということで、こちらも翌日には登校しております。

本件を受けて、5月7日月曜日の朝に、「児童・生徒の水難事故の防止について」という通知を、市立小・中学校全校に発送いたしました。朝礼や学級指導等を通じて、河川の危険性の周知徹底、及び、特に大雨で増水した場合には絶対に近寄らないようにという、具体的な指導を依頼したところです。

報告は以上です。

小田原委員長　ただ今の指導課の報告について、何かございませんか。

和田委員　八王子市の川で、河川敷に降りてはいけないとか、危険地区として指定している場所はあるのですか。

山下指導課統括指導主事　遊泳禁止等の札を立てているところはほとんどありません。

和田委員　特に制約している場所はなくて、小学生も中学生も自由に川へ行って遊んでいい、そういう状況になっているのですね。

要するに、河川の事故を防止するためには、当日の状況を説明するだけでなく、川の水が増水するところになりますよと、具体的に指摘すること、学校に周知することが大事だと思うのです。

山下指導課統括指導主事 全校一律の規制は設けていないので、夏休み前などに近隣の危ない河川について、学校ごとに個別に指導しているのが実状かもしれません。

そのあたりは今後の課題だと思っています。

小田原委員長 多摩川には、遊泳禁止や飛び込み禁止の規制はあるのですか。

和田委員 青梅市の多摩川沿いにはそういうところもあります。「ここには入ってはいけませんよ、危険ですから」という、カエルのマークの付いた立て札が河原に立ててあります。これは自治体の管轄ではないかもしれませんね。

小田原委員長 国土交通省の管轄でしょうか。

加藤施設整備課長 私は防災課にもおりましたが、各学校のPTAが作った「川で遊ばないようにしましょう」などの立て看板以外、八王子市の河川で危険箇所の表示は見たことがありません。

基本的に、八王子市内の川は水量がそれほど多くありません。浅川の場合も、大雨が降ると増水するのも早いですが、水が引くのも早いという特性があります。

青梅市の場合には奥に多摩川の源流がありますので、例え青梅市内で雨が降っていなくても、奥多摩などで雨が降っている場合には急に増水するという特徴があって、河川管理者が注意喚起している場所があるのだと思います。

和田委員 ダムの放水などは関係ないのですか。

加藤施設整備課長 ダムの放水が関係するのは八王子市内では多摩川の本流だけですし、その場合も、八王子市には多摩川の縁の部分が少しかかっているだけなので、あまり影響はないのです。

なお、実際にダムが放水する場合は、関係市町村の防災担当あてに放流の通報があることになっております。

小田原委員長 今回は遊んだ場所が悪かったことと、大雨で増水していたことが重なった事故ということですが、これは普段の行動を注意する方が、むしろ大事になるということでしょうか。

行楽シーズンに仲間と一緒に出かけると、危険性に対する判断がどこかへ飛んでしまうということもあるので、きちんとした認識や判断力をつけるにはどうするか、そ

う問題になってくるのだと思います。

学校でできることは非常に限られていると思いますが、その限られたところで、きちんと指導していかなくてはならない、ということですね。

小田原委員長 報告事項は以上となりますが、委員の皆さんから何かございませんか。

和田委員 先ほど委員長から金環日食の話があったのですが、日食当日の5月21日に、登校時間の変更とか、積極的に日食をする取り組みとか、何か学校で行っていることはありますか。

小田原委員長 始業時間を1時間遅らせるという話もありましたが、結局、その判断は学校側に任せているのですか。

所統括指導主事 日食の起こる時間帯が午前6時から9時ごろと、ちょうど登校時間と重なりますので、各学校にはこれから登校の安全確保等についての注意喚起をしていくこととなります。

なお、観察会などは基本的に各学校の校長先生の判断で行うので、早目に登校させて行う学校もございませし、通常どおりという学校もございませ。

小田原委員長 八王子市や教育委員会として、特に通知はしていないのですね。

所指導課統括指導主事 はい、しておりませ。

小田原委員長 金環日食はめったにない機会ですから、各校の校長がこれをどう判断するかということですね。「校長先生の判断にお任せします」という通知を出すことで、逆に校長に意識させることが必要かもしれませ。

登校中の子どもたちの事故が、最近また増えています。日食当日、車を運転している人が空に見とれて運転を誤ったり、登校中の子どもが上を向いて歩いて注意散漫になっても危ないので、その辺は何らかの注意喚起を含めて、学校に通知することが必要かもしれませ。

所指導課統括指導主事 基本的には各学校の判断にお任せしますが、子どもたちが交通事故に遭わないように歩きながら観察しないなどの通学時の安全確保を図ってほしい、という通知文を出す予定です。

また、近々校長会がございませるので、そこでも、日食を観測できる機会は非常に貴重であるということ、一方で不適切な観察方法によって目に障害が起きる心配もあるので、観察会を実施する場合は、正しい方法で行うことなどを、注意喚起したいと思ひませ。

金山委員 学校コーディネーターを中心に観察会を行う小学校が、ひとつかふたつはある

ようですね。

所指導課統括指導主事 片倉台小学校では東京学芸大学の専門家をお呼びして、朝7時から観望会を実施するという事です。その際は、保護者や地域の方々に協力をお願いして、安全確保の体制も整えるという事です。

坂倉教育長 日食がちょうど通学時間帯に起きるのが一番心配ですね。

皆既日食と違って金環日食はあまり空が暗くならないので、子どもたちが直接太陽を見たり、きちんとしたレンズを使わず下敷きなどで代用してしまう心配もあります。

観察会をしない学校も、本当は早目に登校させてしまった方がいいのではと、個人的には思っています。そこはしっかりと通知してください。

小田原委員長 こども科学館として、こうしてほしい、という注意点はありますか。

牛山生涯学習スポーツ部主幹 まず、直接太陽を見ないことを周知していただきたいと思っています。あとはやはり、交通事故が発生する心配でしょうか。

ただ、金環日食が起きるのはめったにない機会なので、ぜひ正しい方法で、多くの方に観察していただきたいと思います。

小田原委員長 できるだけ多くの子どもたちに体験させたい、というのはありますよね。

和田委員 小学校や中学校には、普段使わない天体望遠鏡が、埃をかぶっていると思います。直接太陽を見るのではなく、投影するようになっていて安全なので、この機会に学校が積極的に使ってくれれば良いと思っているのですが、天体望遠鏡を使える先生も少なくなってきたので難しいでしょうか。

小田原委員長 そういうことに各学校が工夫して取り組むといいですね。

ただし、当日は早く登校させて事故を防げとか、観察会でこういうことに取り組めとか、そこまで教育委員会が踏み込まず、やはりその辺は各学校の校長の裁量に任せようと私たちは考える、ということでよろしいですか。

それにしても、今回の金環日食はめったにない機会ですね。各新聞社でも、こども新聞の読者に観察メガネを配るキャンペーンなどをやっていますから、大人よりもむしろ子どもたちの方が、興味を持って日食を待っているかもしれませんね。

予定された事項は以上ですが、先ほどの教育長のお話もありましたので、配布資料の中の、進捗状況一覧と行事等一覧について、何か発言があればお受けしたいと思います。が、いかがですか。

田島文化財課長 郷土資料館では、「八王子と鉄道」という催しを行っています。3月まではパート の国鉄編・JR編、4月からはパート の私鉄編として、八王子市内の甲州街道に走っていた路面電車、大正天皇が崩御されて多摩御陵に引かれた御陵線の写真やパネルなど、昔の八王子を知る手がかりとなるものを展示・紹介しています。

開催期間は5月27日までと、まだ期間も残っていますので、教育委員の皆様はじめ、乗り物が好きな方、特にお子さん方に見ていただいて、郷土の歴史や八王子をより一層好きになってもらいたいと思います。

小田原委員長 パート の入場者数はどうでしたか。

田島文化財課長 パート も大変好評で、開催期間中3,000名を超える方が入場されました。

以前は八王子市民会館の催しに来て、そちらが始まるまでの時間調整に郷土資料館を訪れる方が多いと聞いていたので、八王子市民会館が八王子駅南口に移転して、どうなることかと思いましたが、昨年の入場者数は一昨年と比べても増えておりますので、そういった心配は無用だったようです。

小田原委員長 これを機会に、郷土資料館の展示目当てに来てくださる方が増えるといいですね。

小山スポーツ振興課長 5月20日日曜日に「ヘルシーウォーキング」を開催いたします。

昨年は東日本大震災の関係で、計画停電がいつまで継続されるかわからず、安全面を考慮して中止としましたが、参加者が毎年1,000名程度いらっしゃいますので、その方々から「今年はどうなるのか」と、多くのお問い合わせをいただいております。

なお、いつもは富士森公園内の陸上競技場をスタート地点としておりましたが、同じ5月20日に陸上競技場で「健康フェスタ」が開催されることから、今年は東浅川小学校をスタート、ゆりのき台、片倉つどいの森公園、由井第三小学校を通過して富士森公園陸上競技場へゴールするという、約11キロのコースにいたしました。また、せっかくなので、最後に「健康フェスタ」の方にもゴールをして、そちらの催し物にも参加していただくという形を考えております。

最近、歩行者が歩道のないところを歩いていると、そこに車が突っ込んでくる事故が多発していることと、通常、夏に多いとされるカミナリ・竜巻・突風などが、5月にも発生しておりますので、役員一同、その辺りにも注意を払うつもりでおります。

なお、「ヘルシーウォーキング」には、事前の申し込みも参加料も要りませんので、当日朝9時から受付を開始して、10時20分までの間に順次流れスタート、という形になります。当日お時間のある方、行ったことがない所を歩きたいという方は、ぜひ参加していただきたいと思います。

小田原委員長 八王子市民だけでなく、近隣の市町村の方にも参加を呼びかけたのですか。

小山スポーツ振興課長 特に呼びかけは行っておりませんが、八王子市民でないと参加できないということではありません。

小田原委員長 背中にゼッケンをつけて歩くのですか。

小山スポーツ振興課長 当日受付でタオルを配布して、それを参加者の目印にいたします。

小田原委員長 他にはございませんか。

中村生涯学習スポーツ部主幹 5月26日土曜日に、中央図書館で「春の朗読会」を行います。この朗読会は、普段図書館で目の不自由な方に対面朗読をされているボランティア団体が、自分たちの技量を高める目的で年2回行っているものです。小説などさまざまなものを朗読する予定ですので、ぜひ、おいでいただければと思います。

小田原委員長 国体推進室はいかがでしょうか。

高橋国体推進室主幹 3月17日土曜日から5月10日木曜日まで、八王子駅南口総合事務所の展示コーナーで、国体事業の一環として、八王子市が開催した6競技の写真や、帝京大学の学生さんの手づくり作品を展示しております。

国体マスコットの「ゆりーと」をモチーフにした作品をなど、楽しい物を展示していますので、機会があればぜひ見ていただきたいと思います。

岩田国体推進室主幹 同じく国体推進室です。5月24日木曜日に、国体の実行委員会と常任委員会を開催いたします。本大会開催1年前ということで、委員の皆様と共に、今後の進め方や周知方法、協力依頼等を図っていきたいと思います。

小田原委員長 その他はございませんか。

それでは特にないようでございますので、以上で本定例会を終了いたします。

お疲れさまでした。

〔午前10時47分閉会〕